

JAPAN SHOP

2022 年 3 月 1 日 会場レポート（前半）

コロナ問題が一進一退を繰り返すなか、店舗空間や各種施設のあり方、また提供するサービスの手法にも、新しいニーズが求められている。より安全、安心な環境を整備し、さらには顧客がそこで働く人が快適な時間を過ごすためには、どのようなコンテンツが必要なのか。JAPAN SHOP の会場から、気になる情報を紹介する。

ニューノーマル対応の店舗対策を紹介！

「省エネ」「省人」にフォーカスした事業開発に積極的に取り組むアイリスオーヤマは、飲食業界で負担の多い配膳や運搬を支援するロボット〈サーヴィィ〉〈キーンボット〉を紹介、それぞれに 30kg、40kg の荷物の運搬が可能。200 度の視界をセンサーで確認しながら安全に走行し、免震構造で器の揺れを最小限に留める。



左から〈キーンボット〉と〈サーヴィィ〉。右にあるのは自動運転クリーナー。

ダイキン工業グループの日本無機は、1959年にHEPAフィルタの開発に成功して以来、製薬・医療の現場の抗菌、換気システムへの技術提供をおこなってきた。しかし、コロナの影響から、医療の現場のみならず、いまやオフィス、店舗、公共施設など、多種多様な場所で空気清浄のニーズが高まっている。そこで従来よりも薄型で移動可能な室内型空気清浄機〈へパウオール〉を開発。厚生労働省が推奨する1時間に2回以上の換気ができない施設でも、十分な相当換気量が得られるというメリットも。1台で20畳ほどの空気清浄が可能だ。



空気清浄の様子を可視化するために、ある程度のサイズ感を維持。レストラン、宿泊施設などに合わせてブラックも新登場！



外気導入による換気が一般的になるなかで、食品工場や飲食施設で懸念されるのが「異物混入」だろう。殺虫剤などの衛生薬品の製造販売を行うフマキラーでは、虫の侵入を防ぐための業務用不快害虫駆除器〈ウルトラベープPRO〉を開発。窓やドアなどの軒下に器具を固定し、連続して無煙・無臭の薬剤を半径3mに噴霧。開口部周りに忌避エリアをつくることで、建物内への虫の侵入を防ぐ。エアカーテン方式（黒いモデル）ならば、風の影響を受けることなく、防虫効果を維持することができる。カートリッジは2ヶ月間の連続使用が可能だ。



エアカーテン式の〈ウルトラベープPRO〉。

木漏れ日の光シャワーなど新しい商空間を彩る製品が集結！



空間デザインの文化的価値と、専門デザイナーの存在意義を追求する JCD。活動の一環に、450 名のデザイナーが選ぶ〈JCD PRODUCT OF THE YEAR〉がある。JAPAN SHOP の会場では、エントリー作品からグランプリ、準グランプリを発表、展示。グランプリは、ワイ・エス・エムが手がけた本型の LED 照明〈NIGHT BOOK〉。ケースから中身を引き出すと電源が ON になり、空間を印象的に照らしてくれる。準グランプリは、パナソニック株式会社ライフソリューションズ社の〈BioSHADOW〉と四国化成の〈クレアデコール〉の 2 作。〈BioSHADOW〉は、木漏れ日や水面などを光で演出するダウンライト型プロジェクター。〈クレアデコール〉は、印象的な下げを可能にした厚塗りの壁仕上げ。共に、光の陰影によって、空間を豊かに彩る新鮮な提案だ。



ほのかな光を放つ 〈NIGHT BOOK〉。



光の演出を壁・床面に投影する 〈BioSHADOW〉。



豊かなテクスチャーを表現した 〈クレアデコール〉。

テキスト：猪飼尚司